

長野県みらい基金助成レポート

地域で子どもたちの育ちを支える「子ども第三の居場所」

長野県・日本財団・長野県みらい基金の「三者協定」で県内6カ所に設立 >> 4月から4カ所が自主運営に移行

今、私たちが暮らす地域社会では、さまざまな事情を抱え、家と学校以外の「第三の居場所」を必要としている子どもたちがいます。そこは、子どもたちが適切な生活習慣や学習習慣、自己肯定感を身に付け、将来の自立に必要な力を養う場所で、専門的な研修を受けたスタッフが子どもたちの育ちを支えています。

高まるニーズを受け、長野県と日本財団、長野県みらい基金は2019年、「子ども第

三の居場所に関する協定書」を締結。それに基づいて同年、長野市、諏訪市、北佐久郡御代田町、下伊那郡松川町の「子ども第三の居場所」で運営支援がスタートし、今年4月からは各所が自立して運営を続けていきます。

この4カ所と、21年から支援が始まった佐久市、伊那市、計6カ所の「子ども第三の居場所」の取り組みを紹介します。

【子ども第三の居場所コミュニティモデル】

協定によって運営される「居場所」は、施設の整備をはじめとした初期費用と3年間の運営費用を日本財団が助成。県とみらい基金は3年間、運営を支援する。4年目からはそれぞれの地域住民や企業、関係機関の協力で運営が続けられる。

多世代、多目的な交流の場で支え合う

にっこりひろば（長野市）



にっこりひろばは、長野市三本柳小学校の近く、JAの支所の跡地にあります。2016年に生まれ、子ども食堂や学習支援を地域の方々と運営、2019年に子ども第三の居場所となり、地域で子どもを見守り、支援ができる、助け合いの場としてスタート。児童生徒の支援、子育て支援、高齢者の憩いといった多目的な交流の場です。

午前中は地域の方々の集いの場になっており、長野市民文庫の貸し出しな

ども行っています。午後は「放課後の居場所」になり、子どもたちはランドセルを棚に置くと、ボランティアの大学生と、まずは宿題を済ませます。その後は、友達とゲームをしたり、漫画を読んだり、思い思いの時間を過ごします。おなかがよく頃にはスタッフが手作りのおにぎりをおいしそうに食べます。

夕方からは、学習支援と夕食がつく「夜の居場所」になります。茶話会スタイルでの「こそだてサポート」「おやこワークショップ」も定期的に開かれ、子育て中の家庭を対象に、親子でいろいろな体験ができます。

料理自慢のスタッフが作る総菜やお弁当、自慢のドライカレーは近所の方々がわざわざ買いにくるほど好評で、居場所運営のために大事な収入源になっています。

地域社会とさまざまに関わる多世代の居場所

まちの縁側なから（北佐久郡御代田町）



浅間山を望む御代田町にある「まちの縁側なから」は一軒家を利用した子ども第三の居場所。家庭的な環境で、子どもたちがくつろぎ、ゆったりとして過ごせます。学習塾が母体のため学習支援を柱に、食事提供とセットに。土曜日には子どもカフェを開いています。

高齢者など地域住民の交流の場にもなっており、地域の伝統食を楽しんだり、自然に親しむ遊び、性教育の「からだ探検隊」、日本語教室など、生きる力

やコミュニケーション力形成を支援しています。

専用の農地も借りており、ここで「畑会合」「みんなで畑作」と称して農作業を体験。皆で収穫した作物を出荷したり、フードバンク活動へ提供したりして、社会との関わりも学べます。他にも、助産師さんとの話し合い、障がい者のある子どもと一緒に活動など、子どもたちのさまざまな体験を大事にしています。畑の作物は販売して居場所の維持費に充てています。

さらに、学用品や衣服などのリユース、相談事業も行っており、地域で課題を抱えている子ども、その親へ、町の心理士とソーシャルワーカーによる家族支援など丁寧な相談事業も実施しています。

さまざまな人の支えで、学びも遊びも精いっぱい

ゆめひろ（諏訪市）



「ゆめひろ」は、JR上諏訪駅横のどこか懐かしい商店街の一角に立地。かつての餃子屋さんの店舗を改装した建物で、1階が集いの場、2階が学びの場になっており、高齢者から子どもまで、いろいろな世代の人々が集まり、交流しています。

学習支援を手厚く行っており、毎週水曜日の「まなび舎」には学習支援ボランティアとして地元の高校生たちが参加します。土曜日の午前中には「ゆめ

ひろ土曜寺子屋」、長期のお休みにも無料学習支援を行っています。

勉強だけでなく、遊びも大事にしています。「ゆめひろプレイパーク」と称して、裏庭を活用しているいろいろな遊びを楽しむ企画では、手作りのピザ窯でランチもいただきます。ボードゲームやビブリオバトルを楽しむなど、大人も子どもも一緒に交流できる場としてにぎわっています。

ここ「ゆめひろ」の特徴は、地域の多様な方々の支えで運営されていること。街の人が気軽に立ち寄ることができ、子どもたちが楽しく学び、遊ぶ場所だから、困っている子どもたちは特に、そうでない人もいつでも訪ねてきてほしいと願っており、スタッフの当番制でオープンしています。

地域の教職経験者が学習支援

Hug（下伊那郡松川町）



NPO法人Hugが運営する子ども第三の居場所は、中央アルプス駒ヶ岳の麓、松川町にあり、小学生～高校生に学習、食事、生活支援など多様なメニューを提供しています。

学習支援は、全学年対象に、学校になじめない子のための「フリースクール」、小学生を対象とした、週3日放課後の宿題をサポートする「宿題サポート」、中学生以上を対象として個別に学習をサポートする「個別サポート」を行って

います。いずれの支援にも、地域の教職経験者の方々がボランティアで携わっていただいています。

食事は、週1日、毎週水曜日の夕方5時から開いている子ども食堂事業の「子どもカフェ」と、収益事業として運営する「多世代交流カフェ」で提供しています。子どもカフェでは、高校生以下に無料でお弁当を配り、同時に無料の学習支援や居場所提供するため、毎回20人程度の利用があります。食材の寄付や調理ボランティアとして多くの地域の方が協力してくれます。

「多世代交流カフェ」には子どもたちのほか、産休や育休中の子育て世代の方や、地域の高齢者の方が利用されています。

地域と連携し、ユニークな活動も

おいでなん処（佐久市）



佐久市にある「おいでなん処」は、中山道岩村田宿の真ん中。昭和時代からの懐かしいアーケードが続く商店街にあり、隣はお総菜屋さん。2021年10月にオープンし、商店街にある子育てに悩む保護者の支援の場「子育てお助け村」や、発達障害、不登校、家庭環境に課題のある子ども、高校中退して学ぶ場を失った生徒などを支援する「岩村田寺子屋塾」といった近くの施設と連携し、商店街のリソース（祇

園祭、花市、えびす講などのイベント)を活用したユニークな子ども第三の居場所を目指しています。

高齢者による昔あそびや昔語り、高校生との農作物収穫体験やロボット体験などのコラボイベント、市の「子ども未来館」の協力を得て佐久地域の自然、歴史、科学を学ぶ一など、他機関とのさまざまな連携を進めています。

学校のある日の放課後、子どもたちはまず「しゅくだいタイム」で学校の宿題を済ませ、その後、地域のボランティアや、学生、高齢者の皆さんと交流する「かかわりたいむ」、おなかがよく頃には、炊きたてのご飯とおみそ汁を商店街のお総菜で晩ごはんをいただきます。

商店街のまん中で楽しい体験が盛りだくさん

伊那まちベース（伊那市）

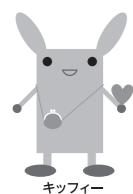


JR飯田線伊那市駅前の商店街の真ん中に2021年11月にオープンした「伊那まちベース」は平日毎日、放課後にオープンしています。高校生のお兄さん、お姉さんのユーススタッフ、いつもいるスタッフ、地域の方々のボランティアさんたちと一緒に、商店街ならではの楽しい体験が盛りだくさん。近隣の小中学生が充実した時間を過ごしています。

居場所は、みんなでお菓子作りもできる、街角のケーキ屋さんのようなおしゃれな空間です。この春休みには「一緒に遊ぼう!」と題して

以下のようにたくさん企画を行っています。

- クッキー作り…高校生のお兄さん、お姉さんと一緒にクッキーを作ろう
 - DIY ワークショップ「看板を作ろう!」…「KidsBASE(きっずベース)」の看板を作ろう
 - 読み聞かせ・工作…高校生と一緒に、絵本の読み聞かせ、手遊び、工作などなど
 - 英語であそぼう…フォニックスや英語のゲームはホント楽しいヨ
 - 折り紙で共同制作…高校生と一緒にみんなでっかい作品を作ろう
 - 子ども放送局…子どもアナウンサーになって、取材したニュースを商店街で放送しよう。
 - 楽しくお勉強(春休み毎日)…春休みにしたい勉強はなあに?一緒にやると楽しいね
- これからもわくわくするような時間を提供し、子どもたちの心にすてきな思い出ができるよう、取り組み続けたいと考えています。



公益財団法人
長野県みらい基金

〒380-8570 長野県長野市南長野幅下692-2 長野県庁1階
TEL 026-217-2220 FAX 026-217-2221 E-mail info@mirai-kikin.or.jp

長野県内6カ所の「第三の居場所」応援プロジェクト
https://www.mirai-kikin.or.jp/donation-program/2497/

寄付はこちらへ



Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION